



プロフィール

西原 時子（にしはら・ときこ）1965年12月17日生まれ
釧路市出身。釧路東高校卒業後、釧路市内の事務用品卸売業者に
7年勤める。結婚を機に白糠町へ転入。その後、親戚に勧められ
てヘルパー2級の資格を取得し、訪問介護事業所に勤める。

利用者を安心させる ホームヘルパーの対応

社会福祉協議会 訪問介護事業所

ホームヘルパー（以下、ヘルパー）とは、正式には訪問介護員といい、要支援または要介護認定を受けた利用者に対して、日常の「生活援助」や「身体介

護」を行っている方をいいます。自宅で介護サービスを受ける訪問介護（ホームヘルプサービス）は、ヘルパーが訪問し、食事の準備や調理、掃除や洗濯などを行う「生活援

助」と、食事や排せつ、着替え、通院や買い物付き添いなどの「身体介護」を行うものです。

町内で訪問介護を行っている、社会福祉協議会訪問介護事業所の西原時子さんにお話を聞きました。

——ヘルパーの仕事を行う上で大切なことは何だと思えますか。

いろいろありますが、訪問介護を利用される場合、初めのうちは知らない人が家に来るわけですから、やはり誰もが不安になると思います。ですので、少しでも安心してもらえるように心掛けています。

——ヘルパーを家政婦と混同されている方もいるのではないのでしょうか。

きちんと理解されている利用者や家族もありますが、中には勘違いをされている方もいらっしゃいます。私たちは利用者の自立を助けるのが仕事ですので、家政婦のように何でもできるかといえば、そうではありません。たとえば、ご飯を残した分は、いつも犬にあげているので、同じようにあげてきてくれ、と。でも、それは『できません』と、やんわりと断ります。人間の心情としては、やっ

すが、そこはきちんと線を引かなければならないと思っています。利用者のためを思えばなおさらですね。

——利用者の見守りや安否確認もヘルパーの仕事の一つだといいますが、実際に利用者の体調が悪そうなきは、どのような対応をするのでしょうか。

いつもと様子が違うなと思ったら、ケアマネジャーに連絡し、状況に応じて対応しています。一番難しいのは、訪問時に応答がない場合です。その時は、勝手に家の中には入れませんので、ケアマネジャーや役場へ連絡をし、場合によっては消防や警察に対応してもらいます。

——本町には現在、18人のヘルパーがいるそうですが、ヘルパーの人数は足りていますか。

私は約20年ヘルパーをしています。が、ほかの方も10年以上勤めており、年々ヘルパーも年を重ねています。この仕事は足腰を使いますし、掃除で腕も痛くなりますので、誰もが体のあちこちに痛みを抱えています。ですので、若い方がもっと居てくれたらと思うのですが、なかなか成り手がいないのが現状です。